

梅津会館を中心とした文化財建造物 管理活用組織の構築



(1) 事業名称等

【事業名称】 梅津会館を中心とした文化財建造物管理活用組織の構築

【実施団体】 特定非営利活動法人 結

【事業経費】 891, 856円

(2)事業の目的

昭和11年、常陸太田市鯨ヶ丘地区の中心に太田町役場として建てられた鉄筋コンクリート造二階建て梅津福次郎翁の寄付により建築され「梅津会館」と呼ぶ

現在、常陸太田市郷土資料館として活用

平成23年度より文化庁補助事業「文化財建造物等を活かした地域活性化事業」により保存修理

平成26年11月から郷土資料館として再開

- 常陸太田市・・・急速な少子高齢化が深刻な課題→子育て支援の施策推進
- 常陸太田市教育委員会・・・当該登録文化財の管理活用→市民団体との協働

特色ある地形と歴史、伝統的な建築や生活文化がつくる町並みを次世代につなぐため、当NPOが核となり「子育てママ」を主たる対象に、会館の公開活用に主体的に参加する人材の育成を行い、地区内の文化財建造物の活用体制づくりを進めていく。

子育てママの参画によって、文化財活用の可能性を広げると共に、その子供たちに鯨ヶ丘地区の魅力を伝えやすくすること、地区の中心をなしてきた梅津会館のリニューアルオープンを機に、歴史まちづくりのための新たな人の輪、活動の輪をつくるのが、本事業の主たる目的である。

当NPOは、前身となるコミュニティーカフェを平成20年より運営、子育て支援を中心に子育てママの応援事業を進めてきた。この取り組みの中で構築された地域ネットワークを本事業にも活用し、梅津会館の受付業務を担う人材育成を同時に進めていく。

(3) 事業活動の内容

文化財建造物を次世代につなぐ
管理活用の勉強会 1 回目
平成26年 9月25日 (木)

◇なぜ歴史を保存するのか？

まずは常陸太田の歴史と出会い、街並みに触れながら保存活用の意義を考える。

- ・「歴史を活かしたまちづくり」とは？
- ・常陸太田市鯨ヶ丘歴史的建造物調査報告と街歩き

◇講師 藤川昌樹先生

(筑波大学システム情報系社会工学域教授)

文化財建造物を次世代につなぐ
管理活用の勉強会 3 回目
平成26年10月30日(木)

◇改修工事終盤に、復原された空間と対面し、改めて当時の建築の魅力に触れながらお掃除の方法や注意点を学び、活用への夢を膨らませる。

- ・保存活用計画に基づく保存改修工事の解説
- ・現場を確認しながら特徴・魅力の案内解説
館内のお掃除ワークショップ

◇講師 金出ミチル先生

(歴史的建造物調査・修復家)



文化財建造物を次世代につなぐ
管理活用の勉強会4回目
平成26年11月27日(木)

- ◇コミュニティーの起源と意義から
梅津会館運営の理念を導き出す。
ワールドカフェ方式のワークショップで
地域の課題と対応策を整理する手法を学ぶ。
・コミュニティー論と梅津会館運営理念の講義
・政策提言型ワールドカフェ
◇講師 長谷川幸介先生
(茨城大学生涯学習教育研究センター准教授)



管理活用の勉強会6回目(実習)
平成27年1月24日(土)

- ◇初回から講座に参加し、歴史と魅力を学んできた受付業務を
担当するスタッフが、一般参加のお客様に梅津会館をご案内し、
伝える手法を学ぶ。
・3グループに分かれ、梅津会館を外部・1階・2階と順番に案内
・意見交換 ・金出先生の講評
◇講師 金出ミチル先生(歴史的建造物調査・修復家)



先進モデル視察 NPO法人旧五十嵐邸を考える会 平成26年10月27日(月)～28日(火)

◇場所: 静岡県静岡市清水区蒲原

◇主婦のワークシェアリングによる登録文化財管理活用の先進事例、旧五十嵐歯科医院の管理委託を静岡市より受けている「NPO法人旧五十嵐邸を考える会」の取り組みを視察。文化財建造物の管理と活用、長い活動の中での問題点とその対応を学ぶ。



リニューアルオープン記念事業 梅津福次郎ツアー 平成26年12月7日(日)

◇梅津会館からスタート、鯨ヶ丘の国登録有形文化財 見学、若宮八幡宮・西山研修所・久昌寺、最後に梅津会館に戻る。
◇梅津福次郎氏の寄付により建設された歴史的建造物と平成26年3月に答申を受けた鯨ヶ丘の国登録有形文化財をめぐる、氏の残した文化遺産と地域の魅力を再発する。
◇案内人: 藤川昌樹先生・金出ミチル先生



→西山荘

(4) 事業の成果

- 全講座6回通しての参加総数136名、実人数39名中、全講座参加11名、1回欠席5名と、受付業務を担う予定の子育てママたちは特に熱心に参加した。
- アンケートの回答から、毎回理解度は高い。地元出身という参加者は少なく、地域の歴史や魅力に全く興味がないところからのスタートであったが、熱心な受講により梅津福次郎氏だけでなく地域に誇りを持ち、次世代に伝えたいという思いに代わっていく様子が自由意見からも読み取れる。
- これまで歴史講座の参加者は年配の男性が多く、若い世代には広がらないものであったが、今回の講座で可能性が広がった。
- 4回5回目で実施した、ワークショップ形式の話合いは初めてというママたちが多く、子どもを対象とした企画が数多く出され、鯨ヶ丘地区の魅力を直接子どもたちに伝える機会が増えると期待される。
- 今回ご協力頂いた、筑波大学藤川教授、金出先生により平成19年に鯨ヶ丘歴史的建造物調査・梅津会館調査が行われ、平成21年に梅津会館で報告会が行われたが、関係者と一部の方の参加でその後の広がりがなかった。再び地域の方々に伝えたいと、当NPOでは昨年2月3月にNPOメンバーと市役所若手職員向けに講座を開講。本事業の前段においても好評を頂き、ようやく新たな方々に地域の歴史を紹介する機会を持つこととなった。これまで、まちづくり関係の講演会なども多数実施されてきたが、地域の歴史調査に基づくまちづくりの講義はそれとは性格が異なり、その土地の人たちが生きてきた歴史や記憶を自分自身のこととして捉えることが出来るもので、今後も出来るだけ多くの市民に聴いて頂く機会を作り、新たな活動の輪を広げていきたい。

(5) 事業実施後の課題

- ・ 地元出身者ではないメンバーがほとんどのため、会館や付近での「思い出」の蓄積をもたず、「学んだ知識」だけとなりがちである。実体験を持たないメンバーが利活用を考えていく際、そのメンバーのみで企画を進めるには不安があり、地域の有識者や地区住民との交流会などを積極的に投げかけていきたい。
- ・ 梅津会館のリニューアルオープンを機に再び地域との結びつきを深め、梅津会館を核とした歴史的建造物群の保護に対する地区住民の理解を醸成していくにはまだまだこれからと言える。

(6) 今後の展開

- ・ 梅津会館ファンクラブ(あるいはサポータークラブ)を組織する。
- ・ 今回同様の講座(入門編)を継続しながら、梅津会館のサポーターを増やしていく。
- ・ 講座のステップアップ編として、既に活動をしている街角案内人の会(ボランティア組織)と連携しながら差別化を図る内容と手法を構築し、梅津会館を拠点に鯨ヶ丘全体にフィールドを広げていく。
- ・ 既に今年度、2階多目的スペースでは当NPO企画で、2月「梅津落語会」、3月は大空間を活かした展示方法で「スケッチで描く常陸太田 ～沼田久雪 ポストカード原画展～」を開催し、来館者数を大きく伸ばしている。企画提案ワークショップを継続しながら、ママたちによる企画を遂行していく。
- ・ 当NPOの他の事業(子育て支援事業、Web事業、芸術文化事業)との連携を図る。



(7) その他【組織体制やワークシェアリングを前提とした勤務条件等を固めていく検討過程】

(シフト表の一部)

平日

A 8:45~10:45 2.0h

B 10:45~14:15 3.5h

C 14:15~17:15 3.0h

土・日

D 8:45~12:45 4.0h

E 12:45~17:15 4.5h

		2月3日		2月4日		2月5日		2月6日		2月7日		2月8日	
A	D	石井	沖澤	佐川	齋藤	佐川	齋藤	齋藤	柴田	茅根	石井	森	石井
B		石井	小林	丹羽	渡辺	山寺	森	秋田	柴田	秋田	大塚	藤田	結
C	E	大塚	小林	丹羽	渡辺	山寺	森	秋田	大塚				
2月9日		2月10日		2月11日		2月12日		2月13日		2月14日		2月15日	
		石井	沖澤	佐川	齋藤	佐川	齋藤	齋藤	柴田	齋藤	佐川	小林	杉森
		石井	小林	丹羽	渡辺	山寺	森	秋田	柴田	藤田	丹羽	鈴木	秋田
		大塚	小林	丹羽	渡辺	山寺	森	秋田	大塚				
2月16日		2月17日		2月18日		2月19日		2月20日		2月21日		2月22日	
		石井	沖澤	佐川	齋藤	佐川	齋藤	齋藤	柴田	齋藤	山寺	関根	大塚
		石井	小林	丹羽	渡辺	山寺	森	秋田	柴田	小林	森	吉田	大塚
		大塚	小林	丹羽	渡辺	山寺	森	秋田	大塚				
2月23日		2月24日		2月25日		2月26日		2月27日		2月28日		3月1日	
		石井	沖澤	佐川	齋藤	佐川	齋藤	齋藤	柴田	山寺	佐川	柴田	渡辺
		石井	小林	丹羽	渡辺	山寺	森	秋田	柴田	渡辺	丹羽	柴田	渡辺
		大塚	小林	丹羽	渡辺	山寺	森	秋田	大塚				